

「令和6年度課題解決支援事業」成果報告書

市町村名 春日井市

事業名 障がいのある人向けの講座の実施

I 経緯

文化スポーツ部文化・生涯学習課として生涯学習の推進を担ってきた当課は、組織改正による編成に伴い、令和6年4月からいきがい創生部いきがい推進課となりました。

人生100年時代を迎える中、「健康な心身とともに、心豊かに、幸せを感じながら生活をするために必要な原動力」「生活の質を高め、人生に喜びをもたらすものとしてなくてはならないもの」を「いきがい」とする市長の想いをもって、年代や障がいの有無にかかわらず、「いきがいづくり」を生涯学習の面からサポートする役割をいきがい推進課が担っています。

第2次春日井市生涯学習推進計画基本目標Iの施策「(3)誰もが参加しやすい学習機会の提供」の取組として、「障がい者、外国人等の生涯学習活動への支援」を新規、重点項目として設置したことから、愛知県生涯学習推進センターの助言をいただきながら、障がい者の生涯学習活動への支援として障がいのある人を対象とした文化及びスポーツの講座を実施することとしました。

施策の展開

基本目標 I 学びにつながるきっかけづくり

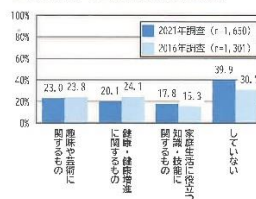
市民の学びに関する興味や関心が高まるよう、意識啓発に努めるとともに、学習活動の実践へとつながるよう、様々な機会や手法を活用して生涯学習の魅力や活動情報を発信し、学習のきっかけづくりにつなげます。また、誰もが気軽に学ぶことができる学習機会の提供を行います。



【春日井市の現状】

- 生涯学習に取り組んでいない人は、2016年（平成28年）の調査より増加し、約40%となっています。
- 学習に対するきっかけがなかったり、忙しから学習に参加できない人が多くなっています。
- 生涯学習という言葉を知らないという人や数回が高いと感じる人もみられ、生涯学習に対する認識を高める必要があります。

■取り組んでいる生涯学習の内容(上位抜粋)



基本戦略

① 生涯学習に関する情報提供の充実

- 多様な媒体を活用した情報の提供
- 生涯学習の魅力や活動情報の発信 **新規** **重点項目**

基本戦略

② 学習活動の多様なきっかけの提供

- 興味関心から実践へとつながる講座等の実施 **新規** **重点項目**
- 活動に関する相談窓口機能の充実
- 市民ニーズの的確な把握

基本戦略

③ 誰もが参加しやすい学習機会の提供

- 生活様式に応じた多様な学習スタイルの提供 **新規** **重点項目**
- 障がい者、外国人等の生涯学習活動への支援 **新規** **重点項目**

第2次春日井市生涯学習推進計画 【改定版】



春日井市

2 趣旨・目的

障がいのある人が地域社会の中で多様な学習活動に参加できるように、障がいに配慮したサポート体制を含め、合理的配慮を提供した学習の機会の充実を図る必要があります。障がいのある人は、講座を体験したことがない方も多いと考えられるため、障がいのある人を対象とした講座を実施し、講座自体の興味を持ち、楽しんでもらうこととしました。また、障がいのある人向けの講座を経験したことのある講師も少ないと思われるため、障がい者支援等の有識者をアドバイザーとして迎え、講師、アドバイザー及び市職員の3者で共に講座を実施することとしました。

3 手段

障がいのある人を対象とした、文化、スポーツそれぞれ1種類ずつの講座を実施。

(1)《文化講座》私だけの書（ショー）タイム（書道体験）

(2)《スポーツ講座》バドミントン講座

4 概要

(1)《文化講座》私だけの書（ショー）タイム（書道体験）

令和6年11月10日（日）、11月24日（日）、12月8日（日）（計3回講座）

(2)《スポーツ講座》バドミントン講座

令和7年1月26日（日）、2月2日（日）、2月9日（日）（計3回講座）

【障がいのある方向けの講座】

私だけの書タイム

2024年 11月10日（日）
第1回◆自分の名前、好きな字を書いてみよう
11月24日（日）
第2回◆来年のカレンダーを作ろう
12月8日（日）
第3回◆みんなで大きな作品を作ろう
10:00～11:30（受付 9:30から）

会場 坂下公民館 第3・4集会室

講師 春日井市小学校書道科
特別講師 吉岡 育子

対象 春日井市内在住・在勤・在学の障がい者（参加者1人につき付き添い1人可）
定員 10人（先着順）
持ち物 水分補給できるもの、新聞紙、ごみ袋、ポケットティッシュ、タオル、汚れてもよい服装、書道道具（自分のものを使用したい方）
材料費 なし

申し込み 令和6年9月27日（金）から令和6年10月11日（金）までに、QRコードから申し込み（先着順）

主催 春日井市いきがい創生部いきがい推進課
（TEL 0568-85-6447）

アドバイザー NPO KIDS COLOR 志村（TEL 090-4163-4365）

QRコード

【障がいのある方向けの講座】

バドミントン講座

2025年 1月26日（日）
2月2日（日）
2月9日（日）
10:00～11:30（受付 9:30から）

会場 味美ふれあいセンター
ホール

講師 春日井市バドミントン連盟
理事長 宮原 裕信

対象 春日井市内在住・在勤・在学の中学生以上の障がい者（参加者1人につき付き添い1人可）
定員 16人（定員を超えた場合は抽選）
持ち物 運動ができる服装、シューズ（未使用のもので体育館利用に適したものであれば何でも可）、汗拭きタオル、水分補給できるもの、ラケット

申込 令和6年12月26日（木）から令和7年1月15日（水）までに、QRコードから申し込み。QRコードからの申し込みが難しい方はいきがい推進課までご連絡ください。

主催 春日井市いきがい創生部いきがい推進課
（TEL 0568-85-6447）

アドバイザー NPO KIDS COLOR 志村（TEL 090-4163-4365）

協力 愛知県生涯学習推進センター

QRコード

5 実施状況・プロセス

(1) 《文化講座》私だけの書（ショー）タイム （書道体験）

【1回目】11月10日（日）：

自分の名前、好きな字を書いてみよう
1回目、皆さん緊張の面持ちで講師の説明を聞いています。「好きな字を書いてみよう」というテーマですが、書道講座が初めてという方も多く、まずは講師のお手本を見ながら挑戦することになりました。慣れてくると、自分の好きな字に挑戦開始。

「お手本書くよ」という講師の言葉に、書きたい字のお手本を書いてもらい、受講者が思い思いの字を書いていきます。



講師が「ここが上手に書けているね」「ここをこうするともっとよくなるよ」と添削を始めると、当初緊張していた受講者が、自分の作品を持って講師に見せに行くようになり、講師の前に添削を待つ列ができました。

最後に、自分のお気に入りの1枚と、その字を書いた理由を受講者ごとに発表し、1回目の講座を終えました。



【2回目】11月24日（日）：来年のカレンダーを作ろう

2回目は来年のカレンダーを作りました。2回目とあって、前回より楽しげな雰囲気。半紙に練習をし、本番へ。干支「巳」や好きな字を書き、自分だけのカレンダーを作りました。

カレンダーを作り終えたら、大きな筆を使って練習し、次回の大きな作品づくりに備えます。最後にカレンダーを受講者ごとに発表し、2回目の講座を終えました。



【3回目】12月8日（日）：みんなで大きな作品を作ろう

3回目は、当初は大きな紙に寄せ書きのように書く予定でしたが、全紙に各自好きな文字を書いていくことにしました。

前回大きな筆の持ち方の練習をしたものの、大きな紙に中腰で書く書き方は初めて。講師の書き方のお手本を真剣に見ていました。



最後に、自分のお気に入りの1枚と、その字を書いた理由を受講者ごとに発表し、3回目の講座を終えました。

(2) 《スポーツ講座》 バドミントン講座

令和7年1月26日(日)、2月2日(日)、2月9日(日)(計3回講座)

【1回目】1月26日(日): ラケットにシャトルが当たるようになる

【2回目】2月2日(日): ショートドライブができるようになる

【3回目】2月9日(日): ダブルスゲームをする

受講者8人に対し、指導者も8人という、とても手厚く指導していただける講座になりました。毎回受講者と指導者がペアを組み、受講者のレベルに合わせた指導をしてもらっているため、初めての受講者もできることが多くなり、やりがいのある講座となりました。



受講者と指導者のペアでダブルスを行いました。ルールが分からず戸惑う受講者もありましたが、指導者から「今度は守るほうだよ」「あそこを狙って打つんだよ」とその都度分かりやすい説明があり、ルールを確認しながら進めることができました。



6 スタッフの感想

書道講座では、今回の講座をきっかけに書道がブームになった受講者がいたという嬉しい報告を、受講者の付き添いで来られた施設職員の方からいただきました。

バドミントン講座では、うまく打てなくても、「ドンマイ！」と声をかけあい、ナイスプレーにはハイタッチやグータッチをするなど、受講者と指導者が隔てなく楽しんでいる姿が見られました。

どちらの講座も、始まるまでは心配でしたが、回を重ねるごとに受講者の方が楽しそうにされているのが印象的で、実施して良かったと感じました。

7 成果

今まで、市の主催講座に職員が参加することはほとんどありませんでしたが、今回は受講者と同様に筆で書いてみる、バドミントンで対戦するなど、アドバイザー及び市職員が講座に参加し、同じことに取り組みました。

一緒に参加することで、受講者としてどのように感じるのかを知ることができました。



8 課題

書道講座については、定員 10 人のところ、締め切り日までに 2 人しか集まらず、講座が開催できるか心配でした。障がい者施設などに直接連絡し、講座を案内することで、最終的に 13 人の方に受講していただくことができましたが、講座の情報を伝えることの難しさを感じました。

9 今後の展望

今回は書道講座とバドミントン講座を実施しましたが、家族の手伝いがないと講座開催場所まで出向くことが難しい方がいることを感じました。

春日井市では地域の集会施設などに春日井市生涯学習情報サイトに登録している講師や市職員を派遣し、講座を行う「出前講座」という事業を行っています。障がいのある人の講座についても、行き慣れている場所や障がい者施設などへ講師を派遣し講座を行うなど、講座の実施方法を検討していきたいと思います。

10 職員としての取り組んだことによる学び・気づき

障がいのある人向けの講座ということで、開始するまでは色々と配慮すべきことがあると感じていましたが、始まってみると、他の講座と大きな違いはないという印象でした。

好きな字を書こう、ラケットにシャトルが当たるようにしよう、という抽象的な説明ではなく、好きな歌やドラマの題名を書いてみよう、シャトルを当てるためにこのようにラケットを握ろう、など、具体的で且つ繰り返しの説明が必要と感じましたが、そのことを意識して講師が指導すること、講師や市職員が障がいのある人向けの講座実施に慣れていくこと、また、障がいのある人の特性を他の受講者に理解を示していただけるのであれば、色々な講座が実施できるのでは、という手応えを感じました。今回の取組を参考に、今後の障がい者の生涯学習活動を推進して参ります。